

▲ ▲ ▲ 鷹ノ巣山 ▲ ▲ ▲

～浅間尾根を登り榎ノ木尾根を降る～

(報告) T. F.

◎期日：2022年5月4日 ◎メンバー：T. F. (単独)

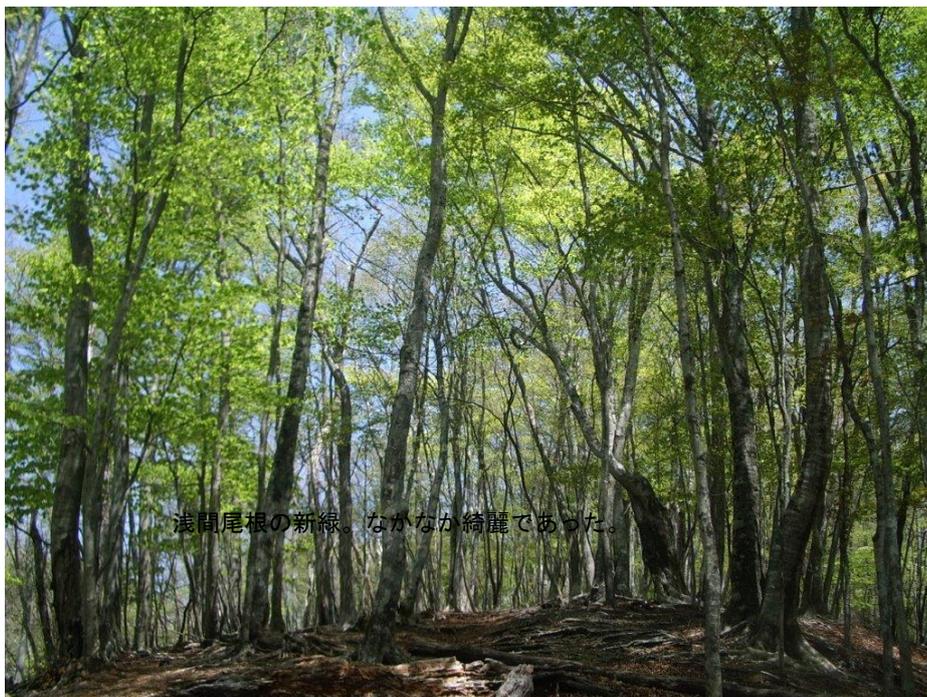
鷹ノ巣山はこれまで何度も登っているが、そのほとんどはトレーニングを目的として、奥多摩三大急登と言われる稲村岩尾根を登り降りしていた。現在は病や加齢などにより、体力・脚力の低下が著しい。加えて稲村岩尾根が通行止めになっていることもあり、登りは最も楽そうな奥多摩湖側の峰谷から浅間尾根を、降りは宿題となっている榎ノ木尾根のコースで計画した。

車を下山予定の倉戸口に近い大麦代駐車場に駐車して、バスに乗り換えて峰谷に移動した。峰谷バス停前のトイレはとても綺麗で、関係者の皆さんの心意気を感じる。バス停より舗装道路を歩き始め、途中で奥集落の道を交えて、丁度一時間で登山口に到着した。案内標柱を確認して登山道を登りはじめた。トラバースの道が続くが、間もなく浅間神社の鳥居の前に着いた。これより尾根道となるが、本日の安全登山の祈願をして歩き出した。自然林になると新緑が綺麗で気持がよく、周囲の樹を眺めながらゆっくりと歩を進めた。



浅間神社の鳥居。ここから尾根道となる。

同じバスに乗って来た方々の姿が、適度な距離をおいて時々見え、休憩の度にお互いに前になったり後になったりしながら高度を上げていった。ブナの新緑に心が和み「やはり山は良い」と思う。



浅間尾根の新緑。なかなか綺麗であった。

標高 1,300m を超えたあたりだったと思うが、尾根の左右にネットで囲まれた椎茸の栽培地がいくつかあった。この高度まで大量の原木をどのようにして運んだのだろうか？ 収穫した椎茸を降ろすのも大変だろうと思っていたら、モノレールがあった。さもあらんと納得。

石尾根を見上げると左上、北西方向に日蔭名栗山が見えた。「その右の鞍部が巳ノ戸ノ大クビシで、鷹ノ巣山避難小屋はあのあたりだ、ルートは上部でこの尾根を外れて左へトラバースするハズ」と思って登って行くと、やはりトラバース道があった。特に案内表示はなかったので、うっかりするとそのまま尾根を登って行きそうである。暫く行くと水場があり、若い男性の3人組が休憩していた。2名は山は初めてだそうだが、「石尾根から奥多摩駅を目指すかも」と言っていたパーティであった。

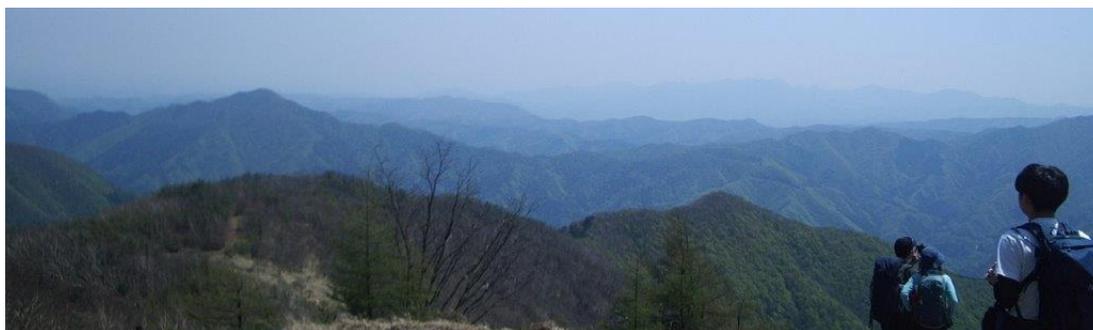
水は良く出ていたが彼らは水筒？には補給していなかった。「ここは避難小屋の水場で、最後の水場だよ」と教えてあげると、「それでは・・・」と、水筒？に補給するようであった。

小生はたっぷりかかっているの素通りしたが、避難小屋へは200mで、間もなく到着した。鷹ノ巣山避難小屋は、一度泊まってみたいような綺麗なログハウスだ。小屋の前には大きなテーブルがあり、近くにはトイレもあるので、石尾根縦走路のオアシスのようだ。席について一本立てるが、次々とハイカーやってくるので、早々に腰を上げ、最後の登りに向かった。



鷹ノ巣山の山頂。

鷹ノ巣山山頂までは徐々に急登になるので、ゆっくりゆっくり足を運び、ようやく山頂に到着。ランチを食べながら山々を眺めた。条件が良いときは素晴らしい展望だが、残念ながら本日は春霞？ 近くの山々はよく見えるが、富士山がようやくかすかに見える程度、南アルプスの山々は見えなかった。



手前の尾根が榎ノ木（かやのき）尾根。高いところが榎ノ木山。中央の大きな山は御前山。



中央にかすかに富士山が、・・・。写真では見えなくなりました。右奥のきれいな三角は「雁ガ腹摺り山」手前の尾根は浅間尾根。

降りには榎ノ木尾根に向かった。これまで何度も鷹ノ巣の山頂から榎ノ木尾根を眺めて、一度あの尾根を降りたいと思っていた尾根、これまでも計画したことはあったが、悪天候で中止したので未踏であった。謂わば宿題の尾根であった。

石尾根から榎ノ木尾根に入ると、浅間尾根と違って前後に人の姿が見えず、大変静かであった。登山道は榎ノ木山のピークを巻いているので、ピークを巻いてしまわないように注意して歩いた。その結果、ピークに立つことができた。3本の樹に「榎ノ木山」と書かれた手製標識がそれぞれ括り付けてあるので、狭いピークに標識が何と3つもあった。

次は倉戸山を目指して静かな尾根を黙々と歩んだ。尾根の広いところはガイドロープが張っており、そのロープに沿って歩を進めた。広いためにどこでも歩けそうで、もしガイドロープがないと、視界が悪いときなどは枝尾根に迷い込む可能生があると思う。

やがて見覚えのある倉戸山に到着した。ここからは1時間ほどで下山できるので安心だ。一休みしてポチポチ腰を上げようとしていると、男性がひとり到着した。「山頂標識はどこにありますか？」と尋ねられた。倉戸山の山頂部はテニスコートなら数面は作れそうなくらいの広さがあり、一見ただけでは山頂標識がどこにあるのか分かりにくい。各ルートを示す案内標柱はほぼ中央にあり、この標柱にも小さく倉戸山とは記されているが、手製の山頂標識は山頂部の端の樹に掛かっていて、三角点はその樹の前付近にある。

その方は何力所かの写真を撮られて「これで多摩100山達成！」とのこと。記念の山だったのだ。早々と女の湯方面に下って行かれた。なかなか健脚の方とお見受けした。

ポチポチ下ろうかとしていたところ、今度は若手の男性3人組が到着した。水場でも会話した3人組であった。「石尾根は止めて、奥多摩湖に下ることにしました」とのこと。またまた、三角点や山頂標識の場所等を教えてあげて、一足先に倉戸口方面へ降り出した。先月歩いたばかりなので、ルンルンと快適に降った。



稲村岩尾根方面はロープが張られ、「通行止」とあった。



榎ノ木山の手製の山頂標識のひとつ。



尾根が広いところはガイドロープ張ってあった。



倉戸山の三角点。奥の樹に手製の山頂標識があった。

登山口のすぐ上にある神社にて無事下山の御礼をして、最後の階段をゆっくりと舗装道路に降り立った。

民家の前の舗装道路を歩いていて思い出した。倉戸山の山麓にはかつて高名なクライマーが住んでおられ、倉戸山でトレーニング中に熊と遭遇し、襲われて負傷されたことがあった。そんなことが新聞か山の本かで読んだ記憶があり、あれはいつ頃のことだったか？と考えながら歩いていると、前方から何やら動物がトコトコとやってくる・・・犬にしては大きい・・・首を前後にゆらしながら歩いてくる・・・犬ではない・・・何だろう？・・・更にこちらに向かって歩いてくる・・・まったくこちらに気づいていない・・・何??と思っていると、ようやくその動物もこちらに気がついて、一瞬立ち止まった。そして慌てて車道の端をすれ違うように駆け抜けて行った。「鹿」!!であった。
・・・熊でなくて良かった！と思わず笑ってしまった。

《当日のコースタイム》

大麦代バス停	8:15	発の峰谷行きバスに乗る
峰谷	8:35~8:45	*綺麗なトイレあり
登山道に入る	9:45	
浅間神社	10:00	
避難小屋の水場	11:40	?
鷹ノ巣山避難小屋	11:45-50	
鷹ノ巣山	12:15-45	*昼食休憩
倉戸山方面最初の分岐	13:00	
二つ目の分岐	13:10	
水根分岐	13:30	
かやのき山	14:00-05	
倉戸山	15:00-10	
倉戸の舗装道路に下山	16:00	*鹿に会う
倉戸口バス停	16:10	

以上